

教育目標		かしこく、明るく、たくましく、豊かに創造する子				総合評価	
運営方針		地域や家庭と協働しながら、自ら課題をもちながら考え・判断し、問題解決・創造する活動を通して、自主性や主体性・自尊感情等を育み、人として自立・自律できる児童を育てる。					
令和2年度の成果と課題		指導の重点目標		具体的目標			
【成果】 ・ICT機器の活用について研修を深めることで意識が高まってきた。 ・縦割り活動で高学年が低学年を導いている場面が増えてきた。 【課題】 ・ICT教育の推進も良いが、道徳・人権教育で「人間づくり」の基本を継続する。 ・家庭の教育力向上は、学校だけでなく地域・家庭及び関係機関と連動して取り組む必要がある。		(豊かな心・ふるさと教育) ・道徳の時間を中心にさまざまな教育活動を通じて、人としてよく生きようとする道徳性を養うとともに、ふるさとに誇りをもつ児童を育てる。		○児童一人一人の心に響く日々の道徳教育を核にして、互いに認め合う心や自立・自律の心を育てる。 ○主体的に地域に関わり、地域に貢献しようとする意欲や態度を育てる。		B	
		(確かな学力) ・各教科の特質に応じた言語能力を育成すると共に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために思考力・判断力・表現力等を育てる。		○児童の力を見極め「数学的な見方・考え方」を働かせる授業づくりに取り組み、算数の力を向上させる。 ○読書や家庭学習及び自主学習などの基本的な学習習慣を身につけさせることにより、学習に積極的に取り組む意欲や態度を育てる。			
		(健やかな体) ・健康・安全について理解を深め、基本的な生活習慣の定着を図ると共に、体力向上を目指して運動に積極的に親しもうとする児童を育てる。		○基本的な生活習慣の見直し・点検を通して、自分の健康や安全について自ら改善していこうとする意欲と実践力を育てる。 ○運動に積極的に取り組み、運動する楽しさを味わわせるとともに、自己の体力を高めようとする意欲を育てる。			
		(働き方) ・業務改善及び働き方改革を推進する。		○勤務時間を意識しながら業務を効率的に遂行し、ワークライフバランスの推進を図ることで、教育の質を向上させる。			
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
豊かな心・ふるさと教育	○児童一人一人の心に響く日々の道徳教育を核にして、互いに認め合う心や自立・自律の心を育てる。	○道徳的価値(自立心、共に考え生きようとする態度、規範意識、生命の美しさなど)の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることができるよう育成する。		B	○概ね道徳の授業を日常生活と重ね合わせて考えさせ、言語活動を通して考えを広げたり、深めたりすることができた。 ●道徳的価値を自分事として捉えきれていないことが課題である。	○今後も引き続き道徳の授業を通して、他の人との関わりや集団・社会との関わりを学ぶようにする。	○あいさつを通して、地域との繋がりが深めれば良いと思う。 ○登下校や村内で出会ったとき元気な挨拶、地域の行事・文化への積極的な参加活動、友達・仲間との交流や助け合い精神等成果が現れていると思います。 ○ICT機器の正しい活用法を習得できたのは将来役立つ。 ○タブレット端末を利用した指導がかなり定着できている。今後も他の市町村の小学校などとの交流も含め、積極的かつ効果的なICTの活用をお願いします。
		○道徳や人権学習・講話を通して、一人一人が互いを認め合い、他者を大切な存在として捉え「共生」の意識を育てる。		B			
	○主体的に地域に関わり、地域に貢献しようとする意欲や態度を育てる。	○学級や学校生活(委員会・クラブ等)をよりよくするために課題を見だし、課題を解決「話し合い、合意形成、実践(役割分担・協力)」することを通して、児童が主体的に活躍し輝ける素地を養う。		B	○特活の模擬授業を行い、昨年度までの研究を生かしながら、共通した「めあて」をもって取り組むことができた。 ●話合うとき、意見はあるが発言の方法に悩んでいる児童がいる。	○全校朝会や下校会等の機会を通じて、児童の呼びかけるとともに、道徳の時間に自分事として捉え、意識を高めることができるよう取組を進める。 ○学級会等で活発な意見交流を行うことができるよう話型を作成し、活用することができるよう取り組む。 ○一人一人が学級等の課題解決することを意識させ、話し合いを積み重ねることで、主体性を養う。	○タブレット端末を利用した指導がかなり定着できている。今後も他の市町村の小学校などとの交流も含め、積極的かつ効果的なICTの活用をお願いします。 ○高校で実施している防災教育の出前授業に今後も協力をお願いしたい。 ○タブレットの活用と情報モラルの教育を推進していく必要があると考える。 ○コロナで地域民との交流はなかなか難しいと思うが、必要に応じて声をかけて欲しい。 ○地域や年代を超えて、できるだけ“生”の声などに触れる機会を増やしてあげてほしい。
確かな学力	○児童の力を見極め「数学的な見方・考え方」を働かせる授業づくりに取り組み、算数の力を向上させる。	○系統的な学びになるよう「位取りや筆算の仕方」を統一するとともに、数学的活動を活発に行い、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察を進められるように算数科の授業を展開する。		A	○系統的な学びになるよう「位取りカード」「二小計算システム」等を全学年で統一・作成し、活用した。 ○児童の学力向上をめざし「数学的な見方・考え方」を働かせる授業づくりをめざし、全学級授業研究を行った。 ○コロナ禍の影響で話し合い活動が制限されるなか、具体物やホワイトボード、クロームブックなどを効果的に活用しながら、主体的に「学びを交流」する場面を増やすことができた。 ●算数に苦手意識をもっている児童が児童が約15%減少し、好きな児童が約70%と増加してきた。	○年2回学力診断テストを行うことで、「数と計算」領域が弱い学年が多いことが分かった。次年度も児童の傾向を客観的に分析することができるよう学力診断を行う。 ○「数学的な見方や考え方」を働かせながら、主体的に課題解決することができるよう取り組んできた。さらに授業の質を高めると共に、課題として見えてきた「数と計算」領域を重点的に取り組む。	○下校時や村内で出会ったときの元気なあいさつ、地域行事・文化への積極的な参加活動、友達・仲間との交流や助け合いの精神等、確実な成果が現れているように感じている。 ○自主的・主体的に学習に取り組めることを習慣化できるように努力する。 ○確かな学力を身に付けさせるため、小高年の連携でできたことと考える。 ○学力テストの分析結果から、児童個々の弱点克服と、今後更に重点的に指導を必要とする内容(教員の指導力UPも含め)の確認をお願いします。
		○基礎学習(数チャレ等)に取り組むことで、「知識・技能」の向上を図る。また「思考力・判断力・表現力」を高めるために、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えさせたり、説明・伝え合い・学び合い等の学習活動を取り入れたりする授業づくりを行う。		C			
	○読書や家庭学習及び自主学習などの基本的な学習習慣を身につけさせることにより、学習に積極的に取り組む意欲や態度を育てる。	○「読書タイム」や「読書貯金通帳」を通して、自己の考えを広げたり深めたりすると共に、図書委員会が中心となって、おすすめの本の紹介・ビブリオバトルなど、説明したり伝え合ったりする活動を行う。		B	○「読書タイム」では、どの学年も静かに本を読んでいる様子が見られた。 ONIE(新聞を使った教育)と連携し、新聞を活用した学習に取り組んだ。 ●図書委員会等で、学年に応じておすすめの本を紹介できたが、ビブリオバトルはできなかった。	○読解力向上の一環として、今後も「読書タイム」を実施する。読む本の種類や努力した児童への取組など計画・実施する。 ○学力診断の結果から書くことに苦手意識を持っている児童が多いことから、書くことの習慣化やワークシートの作成・掲示など取組を進める。 ○自分から計画を立てて、学習することができるよう指導・支援する。	○ビブリオバトルの実施を期待します。 ○家庭学習の実施状況の把握のために、Eライブラリの活用分析と指導を。 ○特別な支援が必要な児童について情報共有し、お互いに指導力向上に繋がるように行けたらと考える。 ○先生方が一生懸命取り組んでくださっていることが分かる。
健やかな体	○基本的な生活習慣の見直し・点検を通して、自分の健康や安全について自ら改善していこうとする意欲と実践力を育てる。	○生活習慣や安全意識に関するアンケートを実施し、保健掲示版に掲示すると共に全校朝会・下校会で改善点について呼びかける。		B	○生活習慣等に関するアンケートを定期的実施し、自分自身の生活を振り返らせ改善に向けて取り組んだ。 ●毎月、保健目標を掲示しているが児童に浸透しきれていない。また、肥満傾向等の児童が増加した。 ○栄養教諭による栄養・マナー等の指導を学期に1回実施することができた。 ○学年によっては教室での食事に限り、指導が行き届きやすくなった。 ●給食後、児童が自分の机をきれいに拭く習慣ができていない。	○今後も毎月の体重測定を行うとともに、保健指導を定期的に行う。 ○保健目標を掲示するだけでなく、全校朝会や下校会、学級でしっかりと呼びかける。 ○給食調理員さんへの感謝の気持ちを表すことができるよう取組を行う。 ○今後も栄養士に食の指導を定期的依頼し、食育指導を計画・実施する。	○休み時間の外遊びは、小学生の基礎体力づくりに欠かせないと思いますが、自分たちのルールで遊びを考え、つくり出すことも必要だと思います。児童がつくる外遊びに期待します。 ○引き続き運動や外遊びを通じて、体力づくりを行って欲しい。 ○登校時、リーダーは安全に気をつけて歩くよう声を掛けて欲しい。また、あいさつの声も聞かれる。 ○コロナ対策を行うことで、学校運営協議会を開催することができたのではないかと。
		○食生活を通して、栄養指導・食への感謝・喜び・マナーを育む食育指導を実施する。		B			
	○運動に積極的に取り組み、運動する楽しさを味わわせるとともに、自己の体力を高めようとする意欲を育てる。	○休み時間の外遊びを推奨し、全体的な基礎体力と運動能力の向上を図る。また、体育委員会を中心に、全校で運動をする機会を計画し実践する。		B	○体育委員会が中心となって、全校で運動する機会を持つことができた。 ○休み時間によく外遊びをしている児童が10%以上増加し85%となった。 ○県教委「外遊びチャレンジ」に全校で取り組み、上位3位に入選する児童たちが数組できた。 ○十津川高校の体育科教員を指導力向上のため招聘し、マット運動について研修を受けた。	○今後も「外遊びチャレンジ」に参加し、運動することの楽しさを味わわせるとともに、自主的に活動できる児童を育成する。 ○体育科等の授業力向上のため、地域連携教育を活用し、研修・研究を行う。	
働き方		○勤務時間を意識しながら業務を効率的に実施する。		B	○業務内容を計画立てて行うことで、超過勤務時間を減少してきた。 ○クックアウトの時刻を考え、勤務できている教職員が約80%となった。	○元気に仕事をすることができている教職員が100%である。 ○業務内容の効率化を目指すとともに、教材研究の時間を確保し、授業力向上を進める。	○働き改革を含めた様々な教育課題情報交換しながら取り組んでいきたいと考える。

A: 達成できた(90%以上)

B: 概ね達成できた(70~89%)

C: あまり達成できなかった(50~69%)

D: 達成できなかった(49%以下)